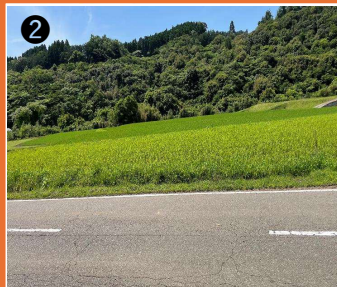


- ① 地域のSさん宅
- ② Sさん宅前のス
イレン
- ③ 地域のKさん宅
- ④ カカシ祭りの畑
- ⑤ 長い坂
- ⑥ おぐら（範囲外
- ⑦ 牛舎
- ⑧ 用水路

8班



上記の写真は、昨年の4月16日に撮影したもの。奥さんが近所の方から苗をもらったことをきっかけに、白薔薇を植樹。Sさんのお宅周辺には、バナナの木といった変わった植物を栽培している人もいた。何年の年や、季節によってはアジサイやラッパの花が咲くこともあり、景観が変わり、面白い場所だった。個人でも老人会として、植物によって、道路沿いの景観を整備している。



バラを植樹されているSさん宅の前にあるスイレン畑。5月から秋ごろまで咲いており、一列に並ぶスイレンが、絶景だそう。しかし、最近では手入れをしっかりとっていないため今年は咲いてくれるかが分からないそうだ。車で通るときに、わざわざ降りて写真を撮る方がいるそう！



毎年コスモスが満開を迎える秋ごろに、40体を超えるユニークなカカシと色とりどりのコスモスが約2000平方メートルにわたって共演する、カカシ祭りが自治会やボランティアの方々によって開催されている。



上の写真は、この地域で見られた牛舎の一つ。この辺りでは畜産を営むご家庭が多く、たくさんの牛が見ることができた。まだ小さい子牛も何頭かいて、まだまだこれから賑やかになっていきそう。本当に行くところどころで牛舎を発見でき、とても驚いた。



新玉ねぎとお墓にお供えするシキミを上記のご自宅の畑で栽培していらっしゃる。化学肥料を使用せず、微生物の働きを利用して栽培する「EM栽培」という農法で作物を育て、それを食べることで体に良い成分を取ることができる、という話を詳しく教えてくださいました。

※EM栽培（EM農法）とは乳酸菌、放線菌光合成細菌など、私たちが日常的に口にしているヨーグルトやお酒など、を造る菌に利用している、人体に有用な微生物を発酵させて肥料や活性液として利用して栽培する農法。



昼食の際に訪れた立ち寄ったレストランの「おぐら」。宮崎県でチキン南蛮発祥の店として全国的にも有名である。店のお母さんはとても面白くて親しみやすかった。お母さんの人柄やおいしい料理のおかげで、気持ちよく昼食を取れた。「おぐら」で人気メニューの一つであるチキン南蛮を食べた黒木君のコメント：今まで食べたチキン南蛮の中でもっともおいしかった。衣がサクサクしていて中身はジューシーであった。



実習地区内を歩く中で、とても長く歩くのにはかなりきつさを感じる急な坂がありました。この付近はただでさえ交通の便が悪く、さらに高齢の住民の方々がよくいらしゃるためこの坂の存在は厄介なものであると感じました。実際に近くに住む方にも話を聞いたところ、運転ができるうちはいいが、今後買い物に行くことさえ億劫になりそうで心配だと教えてくださいました。



地域のなかを流れる川や用水路の水がとても綺麗で思わず手を突っ込んで、顔を洗うようなメンバーもいました。これは、市内などの発展した地域では決してみられないような素晴らしい光景でした。これぞ地域資源！！この綺麗な水のおかげで地域の作物や動物が育ち、都農町の魅力を生み出しているのだと実感できました。

実習を通して感じたこと

【青木】今回調べた地域に行くのは初めてで、見るもの聞くことすべてが初めてのことが多かった。実際に歩いてみると、地図上でみるイメージと違っており、楽しい発見が多くあった。インタビューを快く受けてくださった地域の方から、都農町の良い地域性を見出すことができ、充実した実習ができた。

【石丸】実習で自分自身の足を持って、都農町を知ることが出来たのは良い機会だった。自習を得て、都農町の印象としては、人々がとても優しく、季節によって景観に変化がある土地だと感じた。季節ごとの変化や、人々との触れ合いを持って都農町の活性化をしていくべきだと思った。

【宮崎】実習を通して地域の方々の話を聞いたり実際に町内を歩いたことで、都農の良い点を見つけるのと同時に、下調べだけでは分からなかったであろう地域課題も発見できたと思う。今ある都農町の良いところを活かしつつ、人口減少や高齢化といった問題に取り組むべきだと感じた。

【黒木】町の人たちは皆さん親切でたくさん貴重な話を聞くことができた。挙げてくださったいいところは、食べ物が美味しいところや田舎すぎず暮らしやすいところ、逆に交通の便が悪いことや若者がいないことが課題のようだ。町の彩りを残しつつ住みやすいまちづくりを目指す必要があると感じた。